

英語科における生徒が主体的にコミュニケーション能力を高めようとする授業の創造（2年次）

—つながりのある言語活動と学びの過程の見取りを通して—

大栢 真琴（京都市総合教育センター研究課 研究員）

世界の急速なグローバル化を受け、コミュニケーションツールとしての「使える英語」の獲得を目指して、日本の英語教育は大きな変革を求められている。コミュニケーション能力育成のためには、生徒が英語によるコミュニケーションに自信と喜びをもち、よりよいコミュニケーションを目指して積極的に次のステップへ向かえる学びを授業の中で展開する必要があると考える。生徒自身が学習に見通しをもち、自身の目標設定や振り返りを重ねながら自分の伸びを確認できるように、つながりのある言語活動と学びの過程の見取りを通して、主体的に学びへ向かう姿の育成を目指して研究を進めた。

第1章 英語教育に求められているもの

第1節 英語教育における課題と

目指している方向性

新学習指導要領解説では英語教育における諸課題が指摘されている。その課題の一つである「複数の領域を統合した言語活動」の不十分さは京都市においても見受けられる。また、新学習指導要領でもその必要性が強調されている「見通しと振り返り」についても課題が散見され、英語科の視点からの取組を充実させていく必要がある。

第2節 1年次の研究

1年次の研究では、「読んだり聞いたりして理解した内容をもとに、そこから得た情報や表現を活用しながら、相手意識をもって表現の仕方を工夫し、自分の気持ちや考えを伝えるために英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる生徒」の育成を目指した。複数の領域を統合した言語活動を軸に研究を進める中で、それぞれの領域をつなぐ手立てが必要であると考えた。

図1は領域をつなぐ言語活動の関連図である。

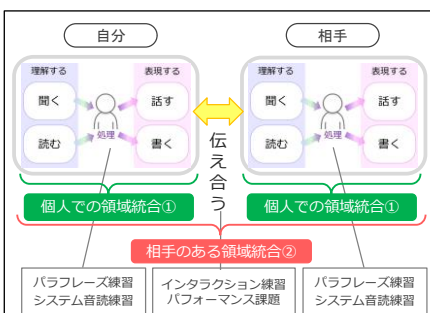


図1 領域をつなぐ言語活動の関連図

手立てとして、パラフレース練習、システム化された音読練習、インタラクション練習等を実践に組み込み、一定の成果が見られたため、これらを基盤にし、2年次の研究を進めた。

第2章 主体的に英語でのコミュニケーション能力を高めようとする生徒の育成を目指して

第1節 研究の構造とその具体

図2は本年度の研究の構想図である。

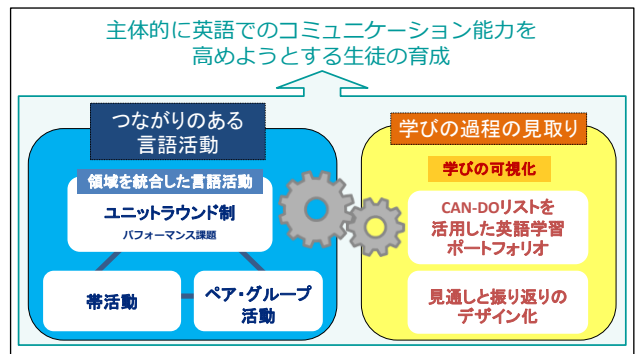


図2 研究の構想図

学習への動機付けや興味関心を持続することはもとより、英語でのよりよいコミュニケーションに向けてさらに主体的に学びへ向かうことができるように、つながりのある言語活動と学びの過程の見取りという二つの柱から実践を進めた。

第2節 つながりのある言語活動について

つながりのある言語活動を次のように整理する。

- ①複数の領域を関連付けた言語活動
 - (1) ユニットラウンド制
 - (2) パフォーマンス課題
- ②ユニットラウンド制とパフォーマンス課題の充実につながる帯としての言語活動
- ③相互評価や活動形態の工夫による生徒間のつながりを大切にした言語活動

第3節 学びの過程の見取りについて

生徒が主体的に学びへ向かうために、次の二つの視点から学びの過程の見取りに迫る。

- ①CAN-DO リストを活用した英語学習ポートフォリオ
- ②見通しと振り返りのデザイン化

第3章 研究の実践

第1節 つながりのある言語活動の実践

つながりのある言語活動の中でも中心となるのが複数の領域を統合した言語活動として展開するユニットラウンド制である。

図3はユニットラウンド制を導入した一つのユニット（単元）における授業の流れを表したものである。

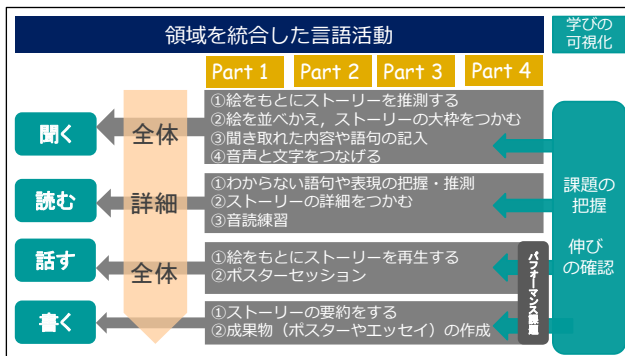


図3 ユニットラウンド制による単元における授業の流れ

各領域をラウンドとして位置付け、それぞれのラウンド毎に異なったタスクを配列した。ユニットを通して一つのストーリーが展開される教科書の性質を生かし、Part 1からPart 4までをそれぞれ分けて指導するのではなく、まずは「聞く」ラウンドで四つの part を通した言語活動を展開し、「読む」「話す」「書く」のそれぞれのラウンドにおいても同じ流れで授業を展開した。「聞く」ラウンドではストーリーの全体像の把握、「読む」ラウンドで詳細の読み取りに進み、「話す」「書く」ラウンドでもう一度全体を捉えさせた。そうすることによって、生徒の思考もつなげることが可能になると考え、実践を進めた。

また、教科書の内容に関して聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考えを話したり書いたりして伝える領域統合型の授業展開における最終の「話す」「書く」ラウンドにおいて、即興性と正確さのバランスを考えたパフォーマンス課題を設定した。

第2節 学びの過程の見取りの実践

単元において計画的に見通し・振り返り活動を組み込むため、①結果と過程の見通し、②結果と過程の振り返りの2段階に分け、実践を進めた。

また、図4に見るように、それぞれのラウンド毎のスマールステップによる段階的、かつ明確な目標を達成していく中で、生徒の課題や伸びが把握できると考えた。その学びを可視化するために、図4のようにCAN-DOリストを活用したポートフォリオを作成し、目標に対しての自分の達成度を自己評価できる仕組みを整えた。

Grade 8 The 2 nd Term		My Goal			
		Listening	Reading	Speaking	Writing
学年目標	特定のテーマについて英語を聞いて、おおよその内容を聞き取ることができる	レポートやスピーチ、物語や説明文を読み、その主な内容や書き手の伝えたいことを読み取ることができる	さまざまな話題について、興味しんだり驚いたりするなどして、会話を続けることができる	さまざまな話題について、自分の考えを理由をつけて話すことができる	さまざまなテーマについて、文のつながりを意識しながら、自分の考えや感情を4文以上で書くことができる
4月	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆
9月	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆
3月	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆
Unit 5 Universal Design	ユニバーサルデザインについて短い説明文のおおまかな内容を聞き取ることができる ○○○	ユニバーサルデザインに関する文章を読み、要約や詳細を読み取ることができる ○○○		ユニバーサルデザインについて聞いたことや読んだこと、考えたこと、感じたこと、思ったことなどをまとめて書くことができる ○○○	ユニバーサルデザインについて聞いたことや読んだこと、考えたこと、感じたこと、思ったことなどをまとめて書くことができる ○○○
Daily Scene 4 situation			電話での形番で取り次ぎを頼むことができる ○○○		
Unit 4 Homestay in the U.S.	ホームステイ先での決まり事や相談、その内容を聞いて、その内容を聞き取ることができる ○○○	ホームステイ先での決まり事や相談、その内容を聞いて、その内容を聞き取ることができる ○○○	日本の中学校での過ごし方について、アドバイスしたりすることができる ○○○	教科書の登場人物のホームステイ先での過ごし方について、リテリングすることができる ○○○	ホームステイの生活の紹介文を書いたり、自分の家の決まりごとについてポスターに整理して書くことができる ○○○

図4 CAN-DO リストを活用した学習ポートフォリオの一部

第4章 研究の成果と今後の課題

第1節 研究の成果

二つの単元においてユニットラウンド制を導入した授業を通して、「英語の力がついたと思うか」を生徒に問うたところ、90%の生徒からその効果を実感しているという肯定的な回答を得た。到達目標に達していない生徒たちの中では、80%が「そう思う」と回答し、一定の成果を見ることができた。

また、結果や過程の見通し・振り返り、そして英語学習ポートフォリオを使用することで各時間、単元等のねらいを生徒と指導者が共有し、生徒自身も逆向き設計の中で授業に取り組むことができた。

第2節 今後の課題

より効果的にユニットラウンド制での授業を展開するにあたり、実践から見えてきた課題を解決すべく、図5のような授業の流れを考えた。

	Part 1	Part 2	Part 3	Part 4
聞く	・絵をもとにストーリーを推測 ・ストーリーを聞いて大枠をつかむ ・音と文字をつなげる			
読む①	・わからない語句、表現の把握			
読む②	・新出語句&言語材料導入 ・ストーリーの詳細をつかむ ・音読練習			
話す	・ストーリーリテリング ・ポスターセッション			
書く	・ストーリーの要約 ・ポスター・エッセイの作成			

図5 より効果的なユニットラウンド制

読むラウンド②においては各 part 毎に指導を展開することで、全体→詳細→全体の形を崩すことなく、より効果的にユニットラウンド制を展開できた。また、その展開を可能にするための時数確保については、年間計画の段階で、各ユニットの指導に軽重をつけることで解決できると考える。